

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月21日現在

機関番号：42307

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320177

研究課題名（和文） 現代日本の青年層の異文化観に関する研究

－群馬県における高校生・大学生の意識の分析

研究課題名（英文） Research on the young generation's aspect of other cultures in the present age Japan - The analysis on the conscious of high school students and university students

研究代表者

小野澤 正喜（ONOZAWA MASAKI）

育英短期大学・現代コミュニケーション学科・教授

研究者番号：90037044

研究成果の概要（和文）：

グローバル化の中で外国人との接触が増え、日本人の異文化に関する意識に大きな変容が生じている。異文化との共生の中、群馬県の青年層が異文化をどのように捉え価値観を見いだしているのか調査を行った。調査では、地域のコミュニティよりも学校生活における友人関係が、異文化に対し強く影響を与えている傾向が見られた。

研究成果の概要（英文）：

The awareness of foreign culture in Japan has change a lot, while the contact with foreigners increased in the modern era of expanding globalization. We investigated how young generation in Gunma perceive and evaluate foreign cultures. In this investigation, the tendency for the relationships with friends in school life to have affected it strongly to foreign culture rather than the community of the area became apparent.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2011年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2012年度	2,300,000	690,000	2,990,000
年度			
年度			
総計	6,900,000	2,070,000	8,970,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード：多民族共生、エスニシティ、異文化理解

1. 研究開始当初の背景

近年のグローバル化の進行の中で日本人の異文化に関する意識に大きな変容が生じている。その基底をなす状況的变化は日本人の一定部分が常時海外に在留していることである。日本経済の海外展開の中で海外在留日本人の数は100万人を超えている。また観光・ビジネス等による海外渡航者は年1600万人以上に達している。1985年のプラザ合

意を起点とする日本社会の外延的展開は、従来内向きの集団志向的行動様式を特徴とするとしてきた日本人一般に、異文化との共存に向けた変化の契機を与えている。更に国内在住の外国人は220万人を超え、日本社会の内なるグローバル化は着実に進んでいる。職場の同僚関係、キャンパスの友人関係、地域社会における隣人等として、外国人と直接接触する機会が増大している。

首都圏のうちでも特に群馬県は、多民族多文化化が顕著に見られる状況にある。東京首都圏における外国人労働者、留学生、外国人観光客等の数はこの20年間に急速な増大を見せている。東京首都圏に対して通勤圏居住区域、近郊農村地域、商工業地域としての役割を担いつつ発展している群馬県は首都圏の一構成部分としての機能を持っている。特に、群馬県には県東部の伊勢崎・太田・大泉地区のような自動車産業の企業城下町的地域を抱えており、愛知県、静岡県、広島県と類似した外国人労働者の集住現象がみられる。群馬県における外国人登録者数は、この20年間で約10倍に増加し、2006年末現在、4万5766人となっている。県全体の人口に占める割合は2.27%であり全国5位である。国籍別の登録者数では、ブラジル人が最多で、次いで中国人、フィリピン人、ペルー人、韓国・朝鮮人の順となっており、南米出身者が50.7%を占めている。こうした変化の契機は1990年の「出入国管理及び難民認定法」の改定であり、これにより、日系のブラジル人、ペルー人等が県東部地域の自動車関連企業に多く就労するようになった。これら地域では外国人の集住地域が点在するようになり、こうした外国人に食料品・生活用品等を供給する商店や文化・教育・宗教的施設も数を増し、民族的コミュニティとしての成熟を見せている。

2. 研究の目的

日本社会の外延的な発展と内なるグローバル化の中で外国人との接触が日常化しており、日本人の異文化理解の概念枠組は根底的な変化の過程にある。本研究プロジェクトは異文化多民族共生への変化を遂げつつある群馬県において、高校生・大学生を中心とする青年層が持つ異文化理解に関わる意識を解明しようとするものである。青年層に対する質問票調査の統計的分析と、フィールドワークによる県東部地区の外国人稠密地域の特質の解明により、異文化意識の構造と変化のモデル化を試みる。文化人類学的方法を主軸としつつも社会心理学、観光社会学、社会言語学等の学際的な研究組織の構成から多面的な検討を通じて、現状の多角的分析を行い、兆候的諸要素の解明に努める。

3. 研究の方法

群馬県県央地区および東部地区の大学・高校の学生に対する質問票調査を基本とする。外国人人口の稠密な東部地区については多民族共存が及ぼす影響を実態に即して理解するため現地における参与観察、面接調査も行う。

本研究では、異文化意識の問題を5つの課題群としてとらえ、5班構成の分担と連携を

通じて研究を行う。班は、①国別選好研究班（アウトバウンド観光や留学のための渡航先についての選好または忌避の意識調査）②言語的選好研究班（異文化・異民族集団の使用言語に関する意識と習得についての選好または忌避の意識調査）③交友関係選好研究班（人間関係を作り上げることに関する選好または忌避の意識と民族のイメージとの関係性の調査）④宗教意識研究班（異文化集団の信奉する宗教に関する知見の程度と中京実践等に関する許容度をとらえ、その背景に関する分析と調査）⑤通婚意識研究班（インフォーマントまたはその親族における異民族との婚姻についての選好または忌避の意識について調査）の5班とし、それぞれの課題について調査研究を進める。

3年間にわたる調査プロジェクトとし、限定的な調査と調査票の整備、本調査、比較対照集団の調査と順次すすめ分析を行う。

4. 研究成果

本研究では、群馬県の高中生、短大生を中心に調査を行い、その特徴について分析を行った。調査対象は高校生約600名、短大生約400名の計1000名、また、他地域の大学生として都内中学生約150名、関東地方の大学生約100名である。

調査結果からわかることを次にまとめる。

まず、異文化との共生や日常的な接触だが、これは相手文化への理解への影響は見られるが、これらの接触が、海外への志向・関心・選好・忌避に対する影響は大きく現れなかった。異文化との共生は、異文化への接触というより、文化との統合を進め、異文化との接触を意識しにくくし、理解のための動機を低めていると考えられる。

それに対し、学校における外国人との接触経験が異文化理解への動機付けとなっている傾向が見られた。

友人関係・宗教意識・婚姻意識においては、これらの接触や共生は、自己のアイデンティティの獲得に繋がることから、関係性を持つことへの動機付けとなる一方で、価値観の相異やコミュニケーションの難しさを経験し深い関係を築くことの難しさから関係性の希薄化の傾向も出ていた。

外国語や外国に対する興味は、これらの接触とはあまり関係性が見いだせていない。逆に、東京・神奈川・栃木と比較したとき、群馬は外国語への関心が低い結果が出ている。共生が進み、2世へと世代が進む中、外国人でありながら、ある程度日本語での会話が可能となることもあり、外国語の必要性を感じていないのかもしれない。

渡航については未経験であることが多く、また、友人関係の希薄さからか渡航先の選好に影響は見られていない。「観光地」「食事」

といった個人の志向による興味の方が影響を与えていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 20 件)

泉水清志 広告から喚起される不確実なポジティブ気分、広告科学 5 2 集 (2010) 47~58

三浦哲也、ボルネオ先住民社会の飲酒文化のグローバル化に関する人類学的研究—サケでつながる人間関係に着目して—、三島海雲記念財団研究報告、47 号(2010) 142~144

泉水清志・小池庸生、現代青年の友人関係に及ぼす要因、育英短期大学研究紀要、28 号(2011) 23~32

三浦哲也、飛行機に乗りたがる妊婦—ボルネオ島先住民・ドゥスン族の女性の妊娠の社会性について—、育英短期大学研究紀、28 号(2011) 47~56

周東聡子、幼児教育者養成課程におけるオントロジー研究の試み—卒業研究を対象として—、育英短期大学幼児教育研究所研究紀要、9 号(2011) 25~32

伊藤優子・大島宗哲、フラサイズを用いた高齢者のためのコミュニケーションに関する研究 1—フラダンスのエクササイズへの応用—、育英短期大学研究紀要、28 号(2011) 1~12

小野澤正喜、移民政策における民族的多元主義の成立に関わる国際比較—アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアの比較—、育英短期大学研究紀要、29 号(2012) 7~24

泉水清志・小池庸生、異文化接触が異文化受容態度と友人関係に及ぼす影響、育英短期大学研究紀要、29 号(2012) 25~42

藤原愛、異文化理解に対する学習者の意識調査、育英短期大学研究紀要、29 号(2012) 53~64

周東聡子・大島宗哲、現代青年層における通婚意識に関する研究、育英短期大学研究紀要、29 号(2012) 87~96

大島宗哲・本村信一・鍾寧、特異性指向によるデータストリームマイニング、育英短期大学研究紀要、29 号(2012) 1~6

伊藤優子・大島宗哲、フラサイズを用いた高齢者のためのコミュニケーションに関する

研究 2—フラダンスの評価—、育英短期大学研究紀要、29 号(2012) 97~103

櫻田涼子、Social Significance of Funeral Announcements and Rethinking Kinship of Chinese Malaysians, Wako Asato (ed.), Proceedings of the 4th Next-Generation Global Workshop, Nation-States and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization, Kyoto: Kyoto University Global COE Program for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia, (2012) 567-578

泉水清志・小池庸生、異文化共生社会への居住が現代青年に及ぼす影響—異文化への態度と友人関係からの検討—、育英短期大学研究紀要、30 号(2013) 47~62

藤原愛、日本人初級英語学習者の発音習得に対するピリーフ、育英短期大学研究紀要、30 号(2013) 37~46

加茂葉子・藤原愛、保育士養成過程の学生に対する英語学習に関する追調査：ESP(English for Specific Purpose)アプローチの視点から、育英短期大学研究紀要、30 号(2013) 81~94

泉水清志、向社会的規範とソーシャルメディアの共感が消費者行動に及ぼす影響、公益財団法人吉田秀雄記念事業財団助成論文(2013) 全 77 ページ

櫻田涼子、Knowledge among Nanyang Chinese and the Role of Newspapers、編者：福谷彬・中山大将、2012 年度京都大学南京大学社会学人類学若手研究者共同ワークショップ報告論文集 (2013) 21~26

櫻田涼子、理想の家族、現実の関係：再編されるマレーシア華人社会の親族関係、京都大学文学研究科グローバル COE 次世代研究ワーキングペーパー77 (2013)

櫻田涼子、新聞記事にみるマレーシア華人の社会関係の変容：「星洲日報」1929 年から 2012 年の告知記事の分析を通じて、白山人類学、16 号 (2013) 印刷中。

〔学会発表〕(計 12 件)

泉水清志、不確実なポジティブムードの影響—広告情報処理における検討—、日本心理学会第 7 4 回大会、2010 年 9 月 20 日、大阪大学

泉水清志・小池庸生、異文化接触と友人関係

日本心理学会第75回大会 2011年9月17日、日本大学

櫻田涼子、Anthropology of Place-making: Everyday Lives of Chinese Malaysian in Modern Housing Estates、山東大学哲学与社会发展学院人類学系列講座、2011年5月25日、中国・山東大学

櫻田涼子、空間がつくる社会関係：マレーシアと中国の「婚房」と女性の身体を事例として、日本文化人類学会、2011年6月12日、法政大学

櫻田涼子、Social Significance of Funeral Announcements and Rethinking Kinship of Chinese Malaysians、The 4th Next Generation Global Workshop of Kyoto University Global COE Program、2011年11月25日、韓国・ソウル国立大学

櫻田涼子、Connecting Places: Women's Circular Networks and Child-rearing Practices among Chinese Malaysians、The 3rd Next-Generation Global Workshop of Kyoto University Global COE program "Migration: Global Reconstruction of Intimate and Public、2011年12月11日、京都大学

櫻田涼子、Working in the City and Rearing Children in the Hometown: Women-Centered Relationships and the Family in the Rural Chinese、Association for Asian Studies(AAS) Annual Conference、2012年3月18日、カナダ・シェラトントロントセンターホテル

泉水清志、刺激によって喚起される具体的な気分、日本感情心理学会第20回大会、2012年5月27日、神戸大学

泉水清志・小池庸生、異文化受容態度と友人関係、日本心理学会第76回大会、2012年9月11日、専修大学

周東聡子・周東和好、日本の教育の情報化と教員養成の現状と課題-教員免許状必修科目「情報機器の操作」の実践-、第5回中日教師教育研究集会、2012年9月、北京師範大学

藤原愛、Attitude of English Learners toward Pronunciation in Japan, the10th Asia TEFL International Conference, 2012年10月4日、インド(ニューデリー)

櫻田涼子、華字紙『星洲日報』創刊時の東南アジア華僑と中国本土の関係、国際シンポジウム「漢族社会におけるヒト、文化、情報の移動」、2012年11月4日、国立民族学博物館

〔図書〕(計3件)

小野澤正喜・小野澤ニッタヤ、編者：首藤もと子、東南・南アジアのディアスポラ、“オーストラリア・キャンベラ市における2つのタイ系ディアスポラ”、明石書店(2010)89~111

櫻田涼子、編者：河合利光、世界の食に学ぶ：国際化の比較食文化論、“マレーシアの喫茶文化：国民的な飲食空間”東京：時潮社(2011)164.

櫻田涼子、編者：田中仁・江沛・許育銘、現代中国変動與東亜新格局、“从房屋到家-馬來西亜華人的廉價房屋居改造及日常實踐”、中国(北京)：社会科学文献出版社(2012)70~81.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小野澤 正喜 (ONOZAWA MASAKI)
育英短期大学・教授
研究者番号：90037044

(2) 研究分担者

小池 庸生 (KOIKE NOBUO)
育英短期大学・教授
研究者番号：80258863
周東 聡子 (SHUTO SATOKO)
育英短期大学・教授
研究者番号：20279566
泉水 清志 (SENSUI KIYOSHI)
育英短期大学・准教授
研究者番号：50389772
三浦 哲也 (MIURA TETSUYA)
育英短期大学・准教授
研究者番号：80444040
伊藤 優子 (ITO YUKO)
育英短期大学・准教授
研究者番号：90389768
櫻田 涼子 (SAKURADA RYOKO)
育英短期大学・講師
研究者番号：
大島 宗哲 (OHSHIMA MUNEAKI)
育英短期大学・講師
研究者番号：80554162
藤原 愛 (FUJIWARA AI)
明星大学・人文学部・講師
研究者番号：70611309
幸田 麻里子 (KODA MARIKO)

流通経済大学・社会学部・准教授

研究者番号：50435228

金子 義隆 (KANEKO YOSHITAKA)

宇都宮大学・基盤教育センター・准教授

研究者番号：70389774